



編集/発行 守山市ほたるの森資料館

# ほたるの森から

Messages from the HOGARU's forest



## もうひとつの主役たち、心つないで

来館者数：38万4,069人 (2022年2月28日現在)



資料館 開設



環境学習



地域連携



河川管理



ホタルの幼虫の放流体験



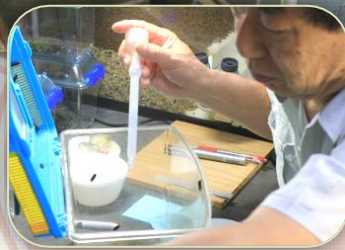
河川管理



守山パーク&ウォーク



ホタルの研究と飼育



ホタルの研究と飼育



(敬称略)



来館者30万人記念植樹

### まちづくりとホタルのために

守山市ほたるの森資料館は、「ほたるの住むまち ふるさと守山」を目指すための活動拠点として平成2年4月25日に設立し、令和2年に設立30周年を迎えました。永年にわたり、「ほたるの森資料館」において、市民の皆様とともにホタルが棲みよ

### 守山市長 宮本和宏

い環境を守るために取り組んでまいりました。今後も、市内でホタルが飛び交うまちを次世代に引き継いでいくための取組を推進して参りますので、ホタルが棲める環境づくりに引き続きご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



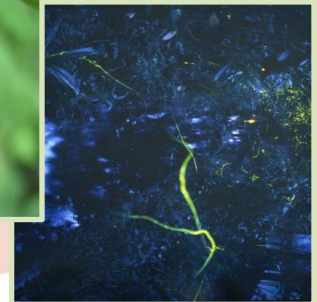
## 森、里山・里地・里川とホタル

全国ホタル研究会会長・龍谷大学教授 遊磨正秀

守山市ほたるの森資料館といえば、ホタルの飼育等の初心者の方は必ず訪れる施設だろう。グランド脇の一角に資料館とともに樹々が育つ場所がある。その樹々の間に流れがあり、ゲンジボタルが舞う。私もホタルに興味を持ち始めた頃、真っ先にお邪魔した。その頃はまだ「里山」という用語はまだ一般的ではなかった。今は里地・里川とともに、人の暮らしに寄り添った自然が残る場所として理解されるようになり、そういう所の小川に住む生き物の代表がゲ

ンジボタルである。しかし、そこはある意味、人の都合で改造した場であった。だから、私たちが類した場をうまく作ればホタルは息づくはずだ。ただ、緑の森は大事、ホタルも大事、というのは人の側の高望みのように思える。河原の「ごそわら<sup>\*</sup>」は大事だが、繁茂し過ぎた「ごそわら」は遊び場にならない、というのが如しだろうか。いずれにせよ、人と緑とホタルの共存を追い求め続けている資料館の努力には感服するばかりである。

<sup>\*</sup>ごそわら：草むらのこと



## 「いいとこどり」でないホタルとの関わりへの期待

滋賀県立琵琶湖博物館 専門学芸員 中井克樹

守山市ほたるの森資料館が開館30周年を迎えられたことに、お祝い申し上げます。私も30歳になる年に滋賀県に職を得て、今年がちょうど30年目となります。定年の年に、貴館の展示替えをお手伝いできた巡り合わせにも、感謝しています。

お先にリニューアルした琵琶湖博物館には、以前、「ホタルはいい。でも、ヤブ蚊はいや」というメッセージを添えた展示がありました。現代生活のなかで自然や生き物が疎遠になるにつれ、特定の役割だけを

期待する「いいとこどり」の傾向が強まっているように思えます。ホタルは、夜の闇を幻想的に照らす都合の良い演出装置ではありません。いくらかの思い込みもあって「清流のシンボル」とも称されるホタルは、ほどほどに良好な水辺の環境や生きものたちのつながりを教えてくれる、生きた指標でもあります。

貴館の取り組みによって、さまざまな環境問題にも通底する「いいとこどり」への気づきが広まることを、期待しています。

ほたるの森資料館 館長 眞田 善之

2020年～2021年の2年間、館長として勤め、様々なことを学ばせていただきました。また、守山市のホタルの生息状況についてもいろいろな課題のあることも知りました。「ホタルの住むまち、ふるさと守山」というキャッチコピーが、現状では「ホタルの見られるまち、ふるさと守山」になってしまっていることから、もっと多くの市民が関心をもっていただき、今まで以上に保幼小中の子どもたちへの教育、啓発をすすめることができると痛感しています。

びわこ豊穡の郷 顧問 北田 俊夫

2003年初夏、市内にホタルが大乱舞。マイカー鑑賞者による道路の大渋滞を反省し、翌2004年「守山パーク&ライド」を発足しました。近年守山ホタルの減少が懸念されています。当時の再現を目指して市民挙げての関心と水環境保全への努力が求められています。

資料館 元館長 竹内 辰朗

ほたるの森資料館設立31+1周年、おめでとうございます。その間、私も10年間館長を務めましたので感無量です。資料館のキャラクターは「もびか」です。この由来は、もりやまの蛍がいつ迄も、ぴかっと光り、守山市民のこころを照らしてくれる事を願って名付けました。

もびかは何時も虫眼鏡を持ち研究心旺盛です。資料館も蛍の研究を進め、守山市民の心の故郷づくりに更に貢献される事を祈念致します。

資料館 元館長 中島 正一

ホタルのつぶやき！「ホタルの住める環境を変えないで」とホタルは叫んでいます。「僕たち私たちホタルは1年間365日光ながら生きています。光つづきたいのです。自然な河川環境を変えないで」と市民一人ひとりに訴えています。

びわこ豊穡の郷 理事長 金崎 いよ子

認定NPO法人びわこ豊穡の郷が指定管理を受けて15年が経過し、ホタルの幼虫飼育、子ども環境教育、市民サービスの向上、親しみの持てる資料館を目指し努力されています。私は5年前からホタルの幼虫飼育を自宅で行っています。200頭の幼虫を提供して頂き9月～3月位まで育てています。餌となるカワニナを週に1回採取する事も中々大変です。幼虫が大きく育っているか分からないまま3月に幼虫取り出しをする時は、期待と不安でいっぱいです。毎年挑戦していますが成果はまだまだです。

市街地では放流に頼るところが多く、ホタルの住める環境条件が問題となっています。ホタルと共生できる環境を地域と共にどのように作っていくか、ほたるの森資料館、びわこ豊穡の郷と協力しながら発信していきたいと思えます。

びわこ豊穡の郷 事務局長 中 明子

前副館長の依頼でホームページ作成を担当し、広報のお手伝いをさせていただいたおりに、職員の方々のホタルに向ける愛情の深さに驚き、感心したのを今でも思い出します。これからも「ホタルのまち守山」の顔として頑張ってください。

守山ほたる会 山口 幸江

わが家は、守山に越してきて28年になります。守山市民になったばかりの夏休み、当時小学2年生だった息子の宿題が家の近くの「マンホールの蓋の写真を撮ってきてください。」というものでした。それですぐに「守山はホタルのまち」なんだなあと思いました。息子たちは成人し、他市に住んでいますが、ホタルの時期になると「もう飛んでる？」と気にかけて、孫を連れて家族で遊びにきてくれます。これぞ「ホタルの住むまち、ふるさと守山」の取り組みの醍醐味だと感じています。ホタルの取り組みに携わっている皆様に感謝し、子どもから孫へ、孫から未来へとこの取組が続きますことを願っております。

30  
守山幼稚園園長 山中 真智子

ホタルの幼虫飼育や飛翔マップ作成など、ホタルとかわる活動の中で、子どもの感動や気づきがたくさんあります。これらの経験を通じて、自分が暮らす身近な自然環境を守る気持ちや命を大切に思う心が育まれていきますように。

守山市立守山中学校教諭 藪下 幸子

平成12年頃、明富中学校の水路を、科学部のみんなで知恵を絞り、草を刈り、泥を取り、雨水を取り込んでピオトープに再生しました。理科室で大切に育てたホタルの幼虫をそこに放流し、最初の1頭が飛んだときの部員達の笑顔が何よりの思い出です。

滋賀県立守山養護学校 校長 安部 法子

この度は、守山市ほたるの森資料館設立30周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。守山養護学校では、“ホタルが住める守山”という豊かな環境を生かし、守山市という地域を知り、環境に対する意識を高めることをねらい、『環境学習(ホタルの学習)』に取り組んできました。毎年、ホタルの幼虫に初めて触れる子どもたちも多く、入院生活では得ることが難しい、貴重な経験の機会をいただき感謝しております。今後も地域の方々と連携し、ホタルの輝き灯る守山の地において、子どもたちの豊かな感性を育んでいくことができるよう努めて参ります。

田中 康之

3年前から二町自治会と子供会が共同で町内の河川に資料館で飼育したホタルの幼虫を放流している。放流前には、紙芝居やビデオを見せて「ホタルはきれいな川にしか育たない。だから川にゴミや空き缶を捨ててはいけない」と強調。放流前には、ホタルの幼虫を見たこともなく「気持ちが悪い」と言っていた子も慣れて無事放流をした。飛翔結果は芳しくなかったが、今後も放流を続けて大人も子供もホタルに関心を持ってもらいたいと願っている。

守山市立玉津小学校 校長 坂元 裕則

本校では、眞田館長に協力していただきながら一昨年度より4年生でのホタル学習に向けて、3年生児童がほたるの幼虫を学校前の水路に放流する取り組みをはじめました。今後も子どもたちが、ふるさと守山の豊かな自然を守っていく担い手となるように願っています。

守山市 元担当職員 西野 達夫

平成2年ほたるの森資料館開設時に市職員として担当していました西野と申します。当時、まだゲンジボタルは人工飼育の域を出ていませんでしたが、今日、市内各地で自然発生が見られるようになったことは、下水道の普及と守山市民が環境を大切にしてきた証と受け止めています。このことをホタルの保護活動関係者をはじめ市民の皆さまには誇りにしてほしいと思っています。

宮嶋 國彦

私の小さい頃は、町内の川でホタルが見られていました。その後、環境の悪化などでホタルが見られなくなりましたが、数年前から町外れの川でまたホタルが見られるようになってきました。5月、6月にはホタルの乱舞を見ようと、町民の方がたくさん訪れています。2、3年前から町内の川にホタルを飛ばそうと、ほたるの森資料館から幼虫をいただき放流をしています。少しずつですが、ホタルが町内で見られたとのお話もいただくようになりました。町内でホタルが乱舞することを夢見て、今年も放流に取り組みたいと思っています。

西村 正幸

昭和25年頃故郷の田舎では、ほたるが飛ぶ光景は「観る」でなく「見られて」あたりまえで、日常生活の営みも自然さが保たれていた。転居して現在の地で21年ぶりにほたるに遭遇、田舎の思いが蘇ってきた。それから38年。今もほたるは生きている。美化活動を続けつつ、誰もが幼い頃の想いにつながる自然環境であれば願っている。

## 中島 耕

私は、小さい頃から昆虫が大好きで、虫ばかり観察していました。私たち人間や動物植物が生息していくために一番大切なものは、「空気」と「水」です。ホタルも同じです。

人間は身勝手な動物で、環境を悪化させ生態系を狂わすような事態に追い込んでいるのが現状です。どこの河川を見てもプラスチックごみや空き缶などが捨てられ、ごみのない川を探すのは難しいくらいです。そのため、自然河川でのホタルの幼虫の生息数調査も難しく、現状が把握できません。環境の時代と言われる今、多くのホタルを飛ばすのではなく、どの河川もゴミのないきれいで美しい水が流れている川をめざし、結果として自然にホタルがあちこちに飛んでいるということを目指したいと切望します。

## 前田 正一

ほたるの森資料館30+1周年を迎えられ、おめでとうございます。現在担当されているスタッフの皆様のご努力で市内ゲンジボタルの飛翔数が増加し、ホタルをたくさん見られる事に感謝いたしております。コロナ禍の中、健康に留意しホタル増殖を実現されることを期待しています。

## 山本 光男

守山でホタルといえばゲンジボタル。一方、ヘイケボタルは希少な存在。ほたるの森資料館の支援を得て、ヘイケボタル保護再生の取組を始めて8年が経過しました。飛翔数は、増加してホタル観察会を開催するくらいまで復活しました。しかし、遅く生きる「田んぼのホタル」は、現在も要支援絶滅危惧種SOSを発信中です。

## 下田 義春

58年ほど前、守山町役場前広場で、ホタル観賞会(ホタル撒き?)の催しがありました。ホタルを空に向けて撒いて、それをトンボ網などで捕っているのです。この様子に仰天し、ショックを受けました。この後、守山ホタルの天然記念物指定解除を知って、ゲンジボタルの自生を目指す活動を始めました。

## 駒井正彦

ほたるの森資料館開設30周年おめでとうございます。私は、文化体育振興事業団で運動公園の管理を担当しています。かつて、ほたる河川Cゾーンの樹木の伐採を資料館の山本さんに頼まれてやったことがあります。当時からいろいろと苦勞されていましたが、最近はたくさんのホタルが飛ぶようになったと聞き感慨深いです。

## 河野 芳明

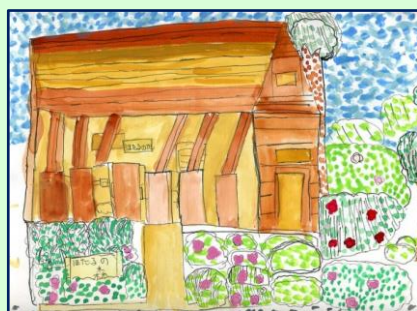
約25年前、石川県手取川の中流で見た、千匹を超えるホタルが群舞し同期発光している風景が忘れられません。10年後、自然繁殖したホタルがチラホラと飛び交う光景が、普通に見られる守山を目指し、微力を尽くしたいと思います。

## 山本 正義

我が家での飼育では、あの幽玄な光を2度楽しめませす。3月末の蛹化装置の中と、6月初旬に羽化してケージの中を飛び回ってくれる時。2週間ほどの短い時間ですが、大いに癒しの時を貰えます。また1年間ガンバローの生きる力をあたえてくれます。

## 白崎 和彦

ほたるの森資料館30周年おめでとうございます。吉身川(吉身小エリア)では、地域住民のパワーで何とかホタルの絶滅を逃れつつあります。少しずつ環境をホタルに譲ることで、できるだけ人工飼育と放流に頼らない、ホタルが自生するふるさとづくりを進めていきたいものです。



## 大黒 雅之

もう20年くらい前ですが、守山市ほたるの森資料館でプロポーズしました。ホタルの光は、幻想的で神秘的で演出効果があると思っていました。今は、娘も資料館に一番近い立命館守山中に在学し、私は立命館守山高に勤務しています。ほたるの森資料館は、緑のある場所ですね。

## 竹谷 満弘

以前、資料館で蛍の飼育を担当していました。ホタル飼育で学び感じたことは、環境・歴史・人とのふれあい・生物多様性など、自然界と人のかかわりや人間社会以外の物にも目を向け、何事も疑問をもって問いかけ、自分で考え、継続する事が大切だと思いました。ホタルは、かわいいです。皆さんも、是非夏にはホタルを見に行ってください。幻想的で、心が癒され、勇気が湧いてきます。やっぱりホタルの光は、いいですねえ。

## 長尾 藤夫

仕事の関係でホタル講座を受講しました。子供のころ庭先の田んぼで当たり前のように見たり遊んでいた蛍が今は保護活動なしでは減少していく事が避けられないとつくづく感じています。蛍の幼虫を可愛いと感じたあなたは立派な自然保護活動員です…。

## 本多 登美子

幼いころ、6月になると無数に飛びかうホタルを捕まえて持ち帰り、「かや」の中に放って心豊かな気持ちで眠ったものです。今は数えるほどしか見られず、何とかホタルを増やしたいと思っておられる人は多いです。しかし、ホタルが好む自然環境は大きく失われ、人々が少々手を加えてもなかなか増えてくれない。「ホタルさん！一番に手伝ってほしいことは何でしょう…」

## 夢森 香仁

夏の夜、箒にうちわ、どちらに軍配一。今では幻だったのかとさえ思う蛍追い。幼き日のあの光が忘れられず、ほたる講座を受け、未知の蛍の生態に魅せられています。守山から滋賀、そして全国へ。蛍の光が拡がり、穏やかで、すごしやすい世となりますように。

ほたるの森資料館 副館長 古川 道夫  
コロナウイルス感染拡大によるパンデミックの最中でも、2021年夏、ホタルがたくさん飛び嬉しい限りでした。この調子で、守山のゲンジボタルが増えて、人工飼育した幼虫の放流にたよらない川づくり活動が進むことを願っています。

## ほたるの森資料館 職員 並河 聡

自然の美しさに魅せられ毎年竹富島を訪れているが、夜の楽しみが芳醇な夜行花の香りと草むらのあちこちに光るホタル見学…地元では地ボタルと呼ばれる3~4cmの大きなホタルの幼虫。これは陸生のオオシママドボタルの幼虫で秋に成虫になり雄は飛び回るが雌は飛べないとのこと。秋に訪れた時、浜辺の草むらでホタルの飛んでいるのを見たことがあるがあれがオスだったのだと思い起こされた。

## ほたるの森資料館 職員 加村 賀勇

ほたる河川(Aゾーン)を「ホタルの自生広場」にしよう取組んでいます。去年は、終齢幼虫を300頭放流し、結果の飛翔数は延べ290頭でした。今年度は、「ほたるとカワニナが共存できる環境」を目指して奮闘中です。目標達成には3~5年ほどかかりそうです。

## 中村 悟

ホタル講座を受講し、自宅でホタルの飼育を始めて、7年目になりますが、あまりに奥が深く難しい事と感じています。現在は、ホタル研究室で飼育のお手伝いをさせていただいています。改めて、ホタルの保護活動に尽力いただいている方々に感謝とエールを送りたいと思います。

## 松村 順子

日本で一番小さい博物館、ほたるの森資料館は、ずっと私のお気に入りでした。ここで人工飼育されるホタルやカワニナに出会い、生態系は全てが複雑につながっていると改めて気づかされました。環境保全も、エコロジーの視点で自然との調和共生をめざしたいとホタルから学んでいます。小さくて偉大なホタルに感謝しています。

# ～ 来館者の言葉（アンケート）と「みんなのほたる」（お絵かき）より～



いろんな虫の標本もあって、おもしろかったです。ほたるのおりがみもたのしかったです。入館も無料なのでまた来たいです。すっぽんの赤ちゃんが動きませんでした。



ホタルの幼虫を見たのが、初めてです。図鑑で姿だけ知っていたのですが、実際に生きている様子、大きさを知ることができて感動しました。ホタルが舞うシーズンにまた、伺わせていただきたいと思います。

もぴかにあえて、うれしかったよ。

ほたるはいつもたいへんで、一しゅうかんしかいきられないし、みんな生きられるのにホタルがかわいそうです。そんなホタルが大好き。

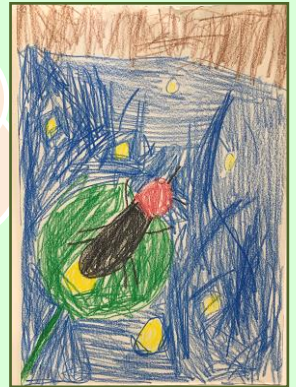


今日は寒かったです。でも、途中から暖かくなってきました。いろんな生き物を見ると、だんだん楽しくなってきました。このほたるを育ててくれた人、ほたるのためにはたらいている人、どうもありがとうございます。



ぼくもホタルが大好きです。社会の時間に南さいちろうさんのことをならいました。ホタルが大量に減ったことも、天然記念物にまでなっていたこともなりました。これからも、ホタルを育てつづけてください。

来年もげんきなほたるにあえますように。これから、みなさんもがんばってください。



折り紙やお魚、おきものが可愛い。満足できた。おみやげが安くていい！

知っているようで、知らないことばかりでした。もっと説明があったらよいと思いました。「ホタル料理」はホタルを模したということですか？ ホタルを食べたわけではないですね。いつも人間の都合で生き物の生命が左右されている。なぜかわしいことです。

一度きてみたいとおもっていました。建物はせまいけれど、来てよかった。カラニナ、これは 食べるると美味なんですよ。知っておられますか？ これを聞いた滋賀のみなさんはおどろかれます。

ここに紹介しきれないくらいたくさんの方のアンケートやお絵かきをいただきました。みなさん、ご協力をありがとうございました。



## ほたるの森資料館の年表

西暦	和暦	事項
1980	昭55	守山市が鳩の森公園にホタル人工飼育研究室を設置
1990	平 2	ふるさと創生事業費により、ほたるの森資料館開設
2000	平12	ほたるの森資料館開設10周年・第33回全国ほたるの研究大会(守山大会)
		守山市ほたる条例制定
2006	平18	NPO法人びわこ豊穰の郷、守山市ほたるの森資料館の指定管理受託
2007	平19	ほたるの森資料館のキャラクター「もぴか」誕生
2011	平23	来館者20万人達成
2015	平27	来館者30万人達成
2020	令 2	ほたるの森資料館開設30周年

～ 開設時のほたるの森資料館 ～



守山市ほたるの森資料館は、国のふるさと創生事業により、1990(平成2)年4月に開設されました。

～ ほたるの森資料館の四季 2021 ～



コロナの影響で開設30周年祝賀行事が行えず、おくれて記念特集号を発行することになりました。  
 【編集後記】 特集号への心のこもったメッセージをお寄せくださいました皆様に感謝申し上げます。30年間にわたる守山ほたるに寄せる思いや取り組みを熱くお伝えできれば幸いです。(M)



**守山市 ほたるの森資料館**

〒524-0051 守山市三宅町10番地 (市民運動公園内)

TEL/FAX : (077)583-9680

e-mail: [hotaru@lake-biwa.net](mailto:hotaru@lake-biwa.net) URL: [www.lake-biwa.net/hotarunomori/](http://www.lake-biwa.net/hotarunomori/)

開館：9:00～16:30

休館日：毎週火曜日

祝祭日の翌日

年末年始



← HPへは  
こちらから

ほたるとび 目田川の川辺あちこちに

子らよろこんで 手を差し伸べて

石田桜翠

資料館 ほたるを守り三十年 記念誌・ビデオ みなで活用

石田和正

日本遺産の 重きを担うスタッフの 愛にそそぐ 無限なる愛

中道節子